

①学校名:	日本赤十字看護大学 大学院(私立)		②所在地:	東京都渋谷区広尾4-1-3			
③課程名:	看護学研究科修士課程看護学専攻実践コース(看護教育学/看護管理学)		④正規課程/ 履修証明プログラム:	正規課程	⑤開設年月日:	平成22年4月1日	
⑥責任者:	研究科長 本庄 恵子		⑦定員:	看護学専攻32名 (令和4年度実践コース修了者数5名)	⑧期間:	2年間	
⑨申請する課程の目的・概要:	高度な理論と実践力を兼ね備え、さらにリーダーシップを発揮し学校経営の視点をもった看護教員や、看護管理にとどまらず、医療経営、病院経営など広い視野をもった管理者を育成する看護管理者といった看護実践家の育成を目的としている。また、「現任教育担当者キャリア支援」として、看護教育学と看護管理学を融合した高度な理論と実践力を兼ね備えた現任教育担当者を育成する。						
⑩10テーマへの該当	医療・介護	⑪履修資格:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を卒業した者</li> <li>・大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者</li> <li>・外国において、学校教育における16年の課程を修了した者</li> <li>・文部科学大臣の指定した者</li> <li>・看護職として5年以上の実務経験のある看護教員および看護管理者、現任教育担当者で、幹部教員や認定看護管理者をめざす者</li> </ul>				
⑫対象とする職業の種類:	看護師、保健師及び助産師						
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) ・看護教育または看護管理の実践的な知識、技術、技能 ・看護教育学と看護管理学を融合した高度な理論と実践力			(得られる能力) ・看護教育または看護管理分野の知識・技術を活用し組織を主体的に運営する能力 ・看護教育または看護管理分野におけるより複雑な倫理的課題に対応する能力 ・看護教育または看護管理分野の質向上のために、組織内外の人々と連携・調整する能力 ・看護教育または看護管理上の課題を解決するために新しいしくみを開発し、変革を牽引する能力			
⑭教育課程:	認定看護管理者認定審査受験、及び看護師等養成所の専任教員または教務主任の養成講習会修了資格取得に必要な科目(特講・演習・実習)を、2の専門領域(看護教育学、看護管理学)に置く。 また、分野を超えて選択できる共通科目を配置し、例えば看護政策論では政策過程への参画を学ぶために国会議員による講義や病院管理の視点から施設設計・運営を学ぶための病院訪問を行い、そのことに関する討議を行うことにより、看護教育学と看護管理学を融合した高度な理論と実践力を養成している。						
⑮修了要件(修了授業時数等):	当該課程に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。						
⑯修了時に付与される学位・資格等:	修士(看護学)						
⑰総授業時数:	86	単位	⑱要件該当授業時数:	76	単位	⑲要件該当授業時数 /総授業時数:	88 %
⑳成績評価の方法:	授業への取り組み、プレゼンテーション、課題への取り組みなど日常の取組と成果を総合的に評価する。						
㉑自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施し、評価結果をHPにて公表している。「自己点検・評価規程」を制定し、教育・研究、組織及び運営並びに施設・設備及び財務の水準向上を図るため、その状況について自ら点検及び評価を行っている。看護学研究科は独自に自己点検・評価委員会を設置し、教育・研究の課題分析と改善計画の実施に関する責任を担う体制をとっている。さらに大学全体の内部質保証を統括し推進する組織として「全学自己点検・評価会議」を設置している。これらにより、各教員による教育活動、研究科、大学全体のレベルによるPDCAの三つの水準における自己点検・評価と改善計画の実施・評価に至る内部質保証の体制を整備している。						
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	修了生に対し、就職状況の調査、意見聴取を実施する。						

<p>⑳企業等の意見を取り入れる仕組み:</p>	<p>(教育課程の編成)  実習施設の看護管理者、病院の教育担当調整者、実習担当者および本学教員による打ち合わせや連絡会議を行い、教育課程の編成に病院等の意見を定例的に取り入れる仕組みを構築している。</p> <p>(自己点検・評価)  学長の諮問機関として、「外部評価委員会」を置いている。看護系教育機関の管理者、病院の看護部長、医師、地域の保健行政担当者等から構成される。より客観的な評価を受け、本学における自己点検・評価活動の客観性・妥当性を高め、本学の教育・研究・社会貢献等の諸活動の質を保証し、更なる改善・向上に努めている。</p>
<p>㉑社会人が受講しやすい工夫:</p>	<p>長期履修制度、集中講義、ICTを活用した双方向授業・学習管理システムの導入、科目等履修生制度を利用した入学前からの単位の取得、各種奨学金、研究助成金や奨励金などの経済的支援</p>
<p>㉒ホームページ:</p>	<p><a href="https://www.redcross.ac.jp/academics/graduate/">https://www.redcross.ac.jp/academics/graduate/</a></p>